

第二十回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策(東海道)

平成19年6月7日(木)相鉄天王町駅前10時00分集合同刻出発。午前中に戸塚駅解散予定です。

当日6時25分のNHK天気予報降雨率50%以上の時は翌週14日(木)に順延します。

行程；天王町駅→1江戸見附→2帷子橋→3橘樹神社→4旧帷子橋跡→5古町橋跡→6神明社→
7古東海道碑→8天徳禅院→9遍照寺→10助郷会所跡・問屋場跡・高札場所→11基爪の句→12麴屋→
13本陣跡→14脇本陣跡・茶屋本陣跡→15一里塚→16上方見附→17外川神社→バス戸塚駅解散。

一口メモ

Ⅲ 保土ヶ谷宿(日本橋から4番目宿場)

保土ヶ谷宿

江戸方見附地点約3.3km。保土ヶ谷宿は江戸を出て最初の難所と言われる、急坂「権太坂」の手前にあった宿場です。当時、「権太坂」のきつさは半端ではなく、途中で行き倒れ人を葬る為の投込塚までありました。そこで、旅人の多くは保土ヶ谷宿で休息、英気を養ってから坂越えに挑んだと言われています。宿場としては江戸時代、慶長6年(1601)に成立しましたが東海道自体のルート変更に伴って慶安元年(1648)に東方へ移動、現在、旧跡が残されている場所に落ち着きました。それより以前の「古東海道」は古町通りから大蓮寺横の坂道を上がり神戸山の尾根を経て神奈川坂を下り元町から権太坂に至る道であると推測されている。規模(正徳元年(1771)、江戸時代宿高2126石646合、家数558・人口総数2928(男1374・女1554)・旅籠屋67・本陣1・脇本陣3。

1・江戸見附跡・

宿場の江戸側の入口出口です。保土ヶ谷宿は江戸見附から外川神社近くの上方見附まで19町(約2km)でした。

2・現帷子橋

昭和39年川筋工事(天王町駅南側公園付近から北側)により現在の位置に移りました。

3・橘樹(ぢバナ)神社

牛頭天王社・天王様・祭神、素盞鳴尊・祭礼、6月19日、9月15日・神紋、祇園くずし。文治2年(1186)頼朝が国中に神社創建時配置と伝う。昔からの地域の氏神で、人々に「お天王様」と言って崇(あが)められていました。境内には保土ヶ谷で一番古い庚申石塔があります。6月に祭りが行われます。

4・旧帷子(かたびら)橋跡(新町橋)

安藤広重の浮世絵で有名。川の流れが変わったため、天王町駅前公園内に模擬橋・記念碑として、残されています。新町橋と呼ばれた帷子橋は保土ヶ谷宿の東入口東海道が帷子橋を渡る地点に架けられた橋で、長さ16間(約27m)幅3間(5.4m)の大きなものであった。

5・古町橋跡

江戸時代初期「古東海道」が帷子川を渡る「古町橋」があった。慶安年間(1648~60)の新道の開通にともなって架けられたのが新町橋(旧帷子橋跡)です。

公田村の年貢米は、此の橋より少し上流神戸村川岸から船積みしたと思われる、現神戸橋は川筋変更時架けられた橋。

6・神明社

祭神、天照皇大神・境内社、経津主神、武甕津槌命、市杵島姫命、豊受比賣命、素盞鳴尊、日本武尊、志那津彦命、志那津姫命、大山祇命、別雷命、筒男命、月読命、火産靈尊、菅原道真朝臣。祭礼、9月16日。伊勢神宮の御領として寄進された棒谷御厨（ハガ・ヤクリヤ・御領地）の鎮守。この「はながや」が「ほどがや」の地名の由来とされています。昔保土ヶ谷の地は棒谷と呼ばれていたが、保安3年(1122)此の地を開拓した豪族が伊勢神宮の神領地として寄進したことから「棒谷御厨」と呼ばれた「毎年白布三十疋（1疋＝2反・60反）が伊勢神宮に献上された」。天録元年(970)の創建と伝えられる棒谷御厨八郷（保土ヶ谷、旭区の全域）の総鎮守として広大な社領が与えられ、宮司以下数十人が仕え隆盛を極めた。元和5年(1619)宮居（ミヤイ）を神戸山山頂から現在地の場所に偏し平成10年に社殿を造営境内の整備が行われた。

7・古東海道碑（相州道と横浜道）

相州道

西に向かい中原街道か大山道に合流。暮らしの道であると共に助郷道、年貢を陸路で新町川岸まで運ぶ道である。

横浜道

保土ヶ谷から横浜村に行く道で神明社大門から東海道と分かれて久保山の裾を通りくらやみ坂から野毛坂を通る。

8・天徳禅院

曹洞宗・本尊長さ1尺5寸の木造地藏菩薩、腹胎仏1寸8分地藏、運慶作。開山は天正元年(1573)北条時代保土ヶ谷の豪族小野筑後守（北条氏家人）が華林栄公和尚に帰依して建立と伝える。開基小野筑後守の子息2代の墓がある。小野筑後守は戦場に向かう時常に兜の中に地藏を納め守り神として千軍万馬の間を走ったという来歴をもっている。

宮本家代々の墓；眼科医宮本周司の子孫宮本清寛は下総佐倉の佐藤泰然（順天堂開祖）に学んだ高名な眼科医（目薬＝金明丹）を販売。（小田原＝ウイロウ・神奈川＝シンミョウユ、打ち身薬等、県下で有名。

9・遍照寺

真言宗・本尊薬師如来坐像木造、85.4cm＝市指有文・京都仁和寺喜多院本尊と同木同作。開山は貞観18年(876)、本尊は仏向村にあった「山崎金堂」と言う大伽藍の本尊でしたが、鎌倉時代に戦いで、寺が焼き討ちにあった折り、帷子川に流された。それを現在の保土ヶ谷区役所付近で拾い上げ、本尊としたのが始まりと言う。江戸時代の狂歌師朱楽管江（アカカノエ）の「百万遍供養塔」・岡野新田開発に尽力した岡野家の墓等があります。

10・助郷（ヌゴリ）会所跡・問屋場跡・高札場跡

助郷会所跡

宿場で賄いきれない人馬を指定された周辺の村から動員することを助郷、指定された村を助郷村と言う。

問屋場跡

公用の人馬や荷物の引継などを行う場所。

高札場所

幕府の法度や掟の書かれた札を掲げた場所です。

（保土ヶ谷税務署トイレ）

11・金沢横町道標・其爪の句碑（4基）

右から1番目；天明3年(1783)建立「円海山の道」「かなさわかまぐらの通りぬけ」(峰の灸有名)

右から2番目；天和2年(1682)建立「かなさわ かまぐら道」左面に「弘明寺道」。

右から3番目；文化11年(1814)建立、基爪(きづ)の句碑、左面に「梅の名所杉田道」・正面に「保土ヶ谷の枝道曲がれ梅の花」と俳句で杉田梅林への道を示しました。

右から4番目；弘化2年(1845)建立「ほうそう神富岡の芋明神への道」(疱瘡除け)。

12・麴屋（平沼家）（現踏切付近）

常陸国鹿島出身明暦年間(1655~58)保土ヶ谷宿に移住し代々九兵衛と名乗り酒造業を営み屋号麴屋と言い年寄り役も務めた。5代目九兵衛は天保10年(1839)平沼新田を造成、住居も平沼に移転。横浜市長平沼亮三は六代目九兵衛の子(慶應大)。

13・本陣跡

当時の通用門が残っています。本陣は大名・公家・幕府公用の役人だけが泊まれた、一番立派な宿です。保土ヶ谷宿本陣は、小田原北条氏家臣荻部豊前守康則の子孫と言われ荻部家が代々勤めています。同家は、問屋・名主を兼ねるなど、有力な家で、安政6年(1859)横浜が開港する際、当時の当主清兵衛悦甫(エッポ)が総年寄りに任じられ、初期横浜町役に尽くした。明治3年に軽部姓に改称し、現在に至っている

14・脇本陣跡

本陣混雑時利用・茶屋本陣正式本陣に匹敵・旅籠屋、木賃旅籠・茶屋。文政7年(1824)金沢横町茶屋七左右衛門が茶屋総代。藤屋・水屋・大金子屋の3軒があった(大勢の程谷留め女が居た)因みに、水屋脇本陣は門構え・玄関付き・建坪128坪・巾8間・奥行き16間・部屋数14室・であった。

15・一里塚

(日本橋から8つ目、約3.2km)

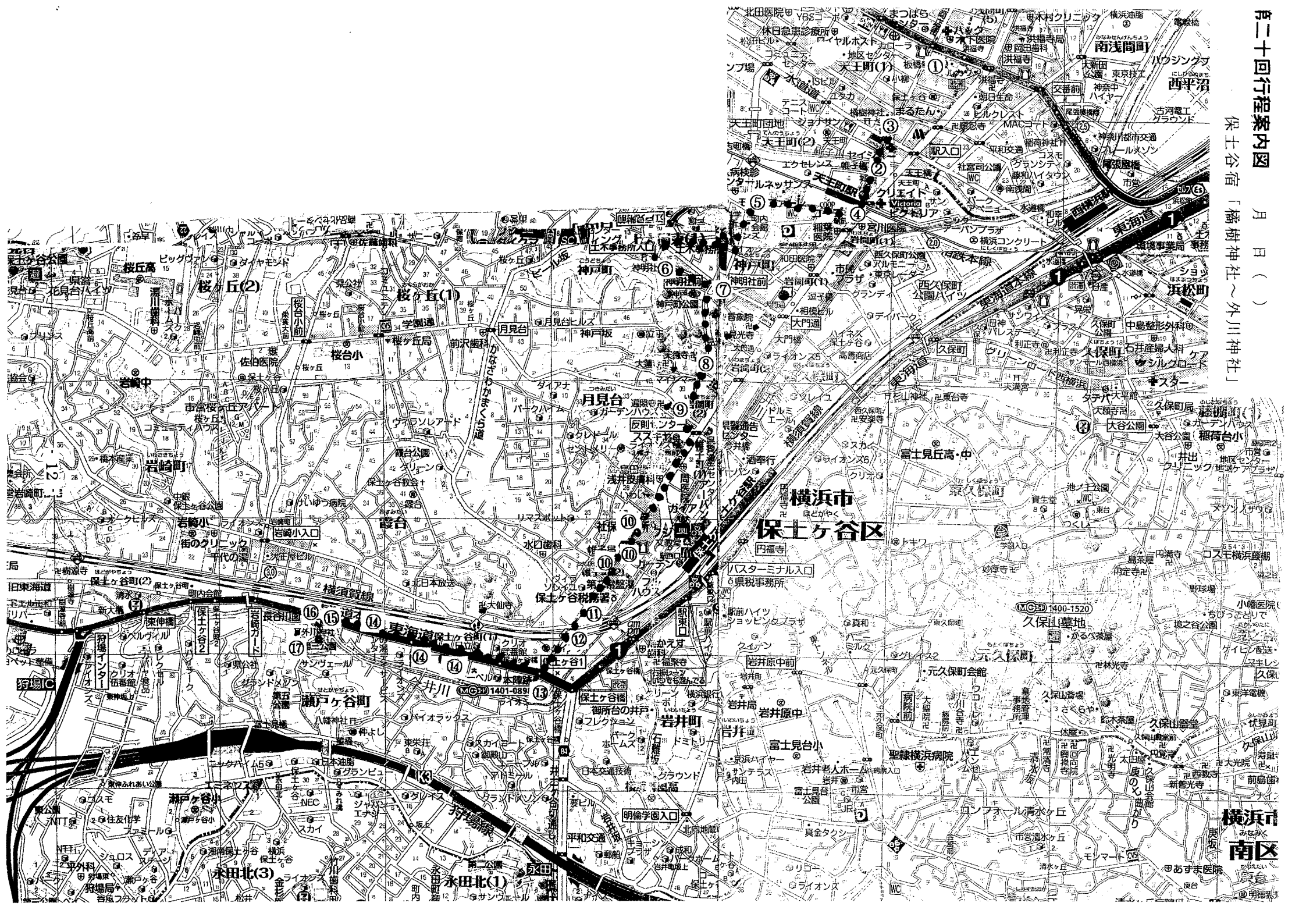
16・上方見附跡

宿場の京都側の入口に当たります。

17・外川(トガリ)神社

祭神、日本武尊で月夜見命、大山祇命、稻倉魂命・祭礼、7月19日・境内社、宇賀神社、祭神宇賀御霊命・道祖神社、祭神道臣命、稻荷社)明治2年、湯殿山講中の先達の清宮與一(ヨヰ)なる者が湯殿、月山、羽黒の三山参拝の際、羽黒山麓の外川仙人大権現分霊を勧請して来て、自己の所有地内、この場所に奉祀し外川仙人六権現と称したもので、「お仙人様」の名で親しまれ、子どもの虫封じ・航海安全に御利益があるといわれました。

この神社の入り口付近に旧東海道の松並木と一里塚の面影を残す工事が進められています。



帷子川

此是武藏帷子郡
別家十日經十州
只思父世不姑舍
夜々夢魂鄉里遊
蘭齋

帷子川

(かたびらがわ)



●現在地：保土ヶ谷区大土町、岩間町、相鉄線・大土町駅周辺